

平成 27 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	27K23	氏名	黒島 健太
研究主題 —副主題—	学級力向上の取組を生かした、若手教員の支援 —児童間の人間関係を深める取組を通して—		
所属校	大田区立入新井第五小学校	派遣先	早稲田大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>学校現場ではいわゆる団塊の世代の大量退職から、大量採用の時代が到来し、教員の若年化と共に、指導力の向上が叫ばれるようになってきた。平成 25 年度の東京都公立学校統計調査報告書によると、教員の平均年齢が 40 歳を下回り、各学校で抱える経験年数の浅い教員を、組織的にどのように育成していくのかが喫緊の課題となっている。</p> <p>また、小学校の現場においては、学力の向上はもちろん、生活規範意識の醸成や特別な配慮を要する児童への心配り、保護者との連携や要望への対応等、たとえ経験年数が浅くても担任一人で様々な問題に対応していかなければならない状況が生じ、学級経営が以前にも増して難しくなっている。そのような状況下においては、先輩教員から学級経営の手法を聞きながら取り入れていくだけではなく、児童間の人間関係に配慮しつつ、個々の学級の実態に応じて、先手を打ちながら学級経営を進めていく必要がある。そのためにも、まずは、若手教員が多様化する学級の状況を多角的かつ的確に把握し、把握した指標に基づいて効果的な教育活動を探り、実践していくことが重要である。</p> <p>そこで、本実践では、若手教員が自らの学級経営を省察し、セルフマネジメント力の向上を先輩教員が支援する。若手教員へのアプローチにより、基礎形成期の教員が身に付けるべき、学級経営力の伸長やセルフマネジメント力向上に寄与すること、及びその効果について分析・考察することを目的とする。</p>
II 研究の方法	<p>学級力向上プロジェクト、及び、マネジメント力チェックシートを活用し、若手教員が担任する学級には、ティームティーチングで直接的に関わる。また若手教員へは、学級参観、学級自己分析シート等を基に、日々コンサルテーションを実施し、多角的な助言を行う。学級力レーダーチャート、およびマネジメント力レーダーチャートを指標とし、客観的な効果の検証を図るとともに、コンサルテーションでの若手教員の発言やアンケート等における、変化を読み取っていく。</p> <p>若手教員が担任する学級の支援や若手教員への支援方法、及びその効果を明らかにするため、以下の視点をもち研究を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 若手教員が学級力、およびマネジメント力の二つのレーダーチャートに関係付けながら省察できるよう助言し、自己の教育活動の点検・改善が図られるか。 2 若手教員が二つのレーダーチャートを自己省察するために、学級自己分析シートが有効な手だてとなりうるか。 3 二つのツールを活用した育成において、コンサルティ、コンサルタントにとっての効果とは何か。

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>1 学級力レーダーチャート</p> <p>直接的に学級に関わり、どの項目も変容した。児童が話し合いにおいて課題に挙げた、「聞く姿勢」や「仲間」に関しては、大きくグラフが変容した。これを受けて、「聞く姿勢」、及び、担任と相談・決定した人間関係に関わりのある項目（「仲間」他五項目）を対象に、アンケートの得点結果についてt検定を行った。その結果、「聞く」「仲間」等の五項目で、有意な変化が見られた。しかし、「感謝」「認め合い」の二項目に関しては、有意傾向にとどまった。</p> <p>2 マネジメント力レーダーチャート</p> <p>コンサルテーションに基づいた教育活動により、計画的な学級作りなど、複数の項目で上昇が見られた。担任が記入したアンケートからは、マネジメント力チェックシートに基づく教育実践で、児童が徐々に変容できた実感をもてたことが、担任としての自信になったことも読み取れた。</p> <table border="1" data-bbox="459 712 1225 1258"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>事前</th> <th>事後</th> <th>t</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>話をつなげる力</td> <td>聞く姿勢</td> <td>2.50 (0.50)</td> <td>3.29 (0.65)</td> <td>***</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">友達を支える力</td> <td>支え合い</td> <td>3.25 (0.44)</td> <td>3.61 (0.49)</td> <td>*</td> </tr> <tr> <td>仲直り</td> <td>3.07 (0.53)</td> <td>3.68 (0.54)</td> <td>***</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>3.50 (0.57)</td> <td>3.79 (0.41)</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">安心を生む力</td> <td>認め合い</td> <td>3.00 (0.54)</td> <td>3.29 (0.60)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>尊重</td> <td>3.00 (0.66)</td> <td>3.50 (0.69)</td> <td>*</td> </tr> <tr> <td>仲間</td> <td>3.05 (0.38)</td> <td>3.61 (0.62)</td> <td>***</td> </tr> </tbody> </table> <p>***p<.001 **p<.01 *p<.05</p>			事前	事後	t	話をつなげる力	聞く姿勢	2.50 (0.50)	3.29 (0.65)	***	友達を支える力	支え合い	3.25 (0.44)	3.61 (0.49)	*	仲直り	3.07 (0.53)	3.68 (0.54)	***	感謝	3.50 (0.57)	3.79 (0.41)		安心を生む力	認め合い	3.00 (0.54)	3.29 (0.60)		尊重	3.00 (0.66)	3.50 (0.69)	*	仲間	3.05 (0.38)	3.61 (0.62)	***
		事前	事後	t																																	
話をつなげる力	聞く姿勢	2.50 (0.50)	3.29 (0.65)	***																																	
友達を支える力	支え合い	3.25 (0.44)	3.61 (0.49)	*																																	
	仲直り	3.07 (0.53)	3.68 (0.54)	***																																	
	感謝	3.50 (0.57)	3.79 (0.41)																																		
安心を生む力	認め合い	3.00 (0.54)	3.29 (0.60)																																		
	尊重	3.00 (0.66)	3.50 (0.69)	*																																	
	仲間	3.05 (0.38)	3.61 (0.62)	***																																	
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>成果として、以下の三点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 二つのレーダーチャートを指標とし、より効果的な教育活動（国語の授業における授業作り、はがき新聞活動、構成的グループエンカウンター等）が実践できた。 2 学級自己分析シートの活用により、若手教員が自己の学級の状態や学級経営を自分自身で省察できた。 3 二つのツールを活用することにおける、コンサルティ、コンサルタントにとっての効果を整理できた。 <p>課題として、以下の二点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童が、学級をよりよくする取組を自己決定していく力を身に付けるために、担任は様々な活動から取り組む必要がある。 2 児童が、セルフマネジメント力を高めるために、教員は、より効果的な助言や学級での取組をカテゴライズしていく必要がある。 																																				